

●「職業・薬剤師」をもっと楽しもう！

私が初めて「働いてお金をいただく」ということを経験したのは、大学生の時のアルバイトです。最初は、単発の「結婚式場の引き出物セッティング」というお仕事から始まり、家庭教師等も経験しましたが、一番楽しかったのは、デパートの洋服売り場での接客販売の仕事でした。

子供服、紳士服、婦人服と経験しましたが、中でも、高級ブランドの婦人服の接客は本当に勉強になりました。そこを一番長く担当しましたし、当時は、大学にいる時間より、デパートで働いている時間の方が長かったと思います！

そこでは、高級婦人服を売るためにはどう接客したらいいのか、ということを手で考え研究しました。最初は「高い物を扱うので、学生に見えない方がいいかな」と考え、自立して見えるように立ち振る舞いをして、次に社員さんの接客を見ながら、「ブランドや生地の説明はああやってやるのか」「どのタイミングでお声を掛ければお客様は不快に思わないで話をしてくれるのか」など、その都度メモし、覚えていくと、そのうち顔なじみのお客様ができて声をかけて下さるようになった時には本当に嬉しかったです。また、日曜の販売額が婦人服売り場で一番多かった日は、部長さんに朝礼で褒められて、さらにやる気が出ました。

この頃、「早く社会人になって、こうやって誰かのお役に立てるように、毎日たくさんのお客様のために働きたい。早く大学を卒業したい」と思うようになっていました。

大学卒業後、お客様を待つ販売ではなく営業の仕事を希望し、株式会社リクルートに入社。取引先の一社である急成長中のドラッグストア企業の、薬剤師採用のコンサルティングを手掛けたのが、職業・薬剤師と接点を持ったきっかけです。

当時出会った薬剤師さん達は、仕事がとても楽しそうでした。「働く人がお客様、患者様の役に立ちたいと思う気持ちは皆同じなんだな」と感じたのですが、しかしそれは決して全員ではなく、働く薬剤師さんの中には、「仕事が単調で数年で飽きてしまう」「やりがいが見つからない」「自分のためには勉強になるが・・・」という声も聞こえてきました。

私は、医療従事者を目指して薬剤師になったからといって、皆が仕事にやりがいを感じているわけではなく、仕事に悩み、迷うこともあるのかと驚き、でもやはり、働く人はどんな職業でも皆同じようにいろいろと悩むのだなと実感しました。

その後、私はフリーの人事コンサルトを経て薬剤師専門のキャリア支援会社を設立したのですが、会社のキャッチフレーズは「薬剤師を楽しもう」としました。薬剤師がさらにもっと患者さんの役に立つ職業になるためには、まずは薬剤師自身が自分の仕事にやりがいを感じて楽しい、と笑顔で言えるかどうかが大事、という考えからです。

この本をまとめるにあたって、薬剤師の皆さんが「職業・薬剤師という仕事に真にやりがいを持って働く」という、「働くの基本」を考えるきっかけになればいいなと思っています。

人生において長い時間を占める「働く」を充実させ、お互いいい人生にしましょう。頑張りましょう。

株式会社キャリア・ポジション 代表取締役
米国 CCE,inc. 認定 GCDF-Japan キャリアカウンセラー

西鶴 智香

皆さんは、今、働いていて楽しいですか？

日々、やりがいを感じ、充実感がありますか？

もしくは、薬剤師という職業にあまりやりがいを感じられず、悩んだり、迷ったりしているでしょうか。

1 「仕事」に就ける喜び

人にとって「仕事」って、何でしょう。

生きていくうえでお金を稼ぐ手段であるのはもちろんですが、そういった手段として以外に、「仕事に就く」ことで得られ、感じられるものがあるのではないのでしょうか。

「仕事」に就くと、職場の仲間ができます。コミュニケーションを取りながら、交友関係も広がり、日常生活も楽しいものになるでしょう。

「仕事」がなかったら、毎日どんな様子になるでしょうか。

まず、収入がなくなるので、貯金でやりくりする生活になり、そのうち将来が不安になりそうです。朝は出勤するところがないので、よほど意識しないと規則正しい生活ができなくなりそうですし、コミュニケーションを取る相手も限られた人になりそうです。

以前テレビの番組で、失業して就職活動中の男性がインタビューで「1人で就職活動をしていると寂しいし、不安でいっぱいになる。早く仕事がしたい」と言っていました。「何でもいいから早く仕事に就きたい」。結局、その人は就職できたのですが、朝、初出勤する際の姿はとても生き生きしていました。

やはり人にとって、働ける、仕事がある、ということは、とても大事なことのようです。

ポイント

薬剤師の皆さんは、大学を卒業する時には求人がたくさんあって、内定も容易に取れ、どれを選択するか迷った程だと思えますので、ひょっとしたら「採用されてよかった」「仕事に就けてよかった」と心底、喜べた経験は少ないかもしれません。

薬剤師就職バブルはこれからも続くとは思えません。待ち受けている医療制度の変化、業界再編の話題は、薬剤師の就職にとっては不透明な話題ばかりです。薬剤師の仕事に就けてよかった、と感じる時代が到来すると予想します。

「Career = キャリア」という言葉を皆さんはどのような意味で使っていますか？
私達は会話の中で、「もっとキャリアアップしたい」とか、
「今後の自分のキャリアを考えると不安がある」とか、
キャリアという言葉をそのままのフレーズで使うことが多いと思います。
「キャリア」の意味としては、「仕事」「スキル」「職歴」「経歴」「実績」「生涯」…
と、いろいろな意味で使っていると思います。

1 「キャリア」とは

キャリア (career) の語源は、「馬車が通った道」のことで、これが「歩んできた人生」となり、経験、遍歴などを意味するようになりました。

さて、「キャリア」という言葉の定義は学者によりさまざまなものがあり、1つの決まった定義はありません。

例えば、アメリカの経営学者ドナルド・E・スーパー (Donald E Super) は、キャリアを「人生のある年齢や場面のさまざまな役割の組み合わせ」とし、キャリアを考える際に重要なことは、一時期の職業活動だけに限定して考えるのではなく、仕事を含む自分の生き方や人間関係、社会的役割にまで広げて考えること、と言っています。

私 (米国 CCE, inc. 認定 GCDF-Japan キャリアカウンセラー) は、「キャリア」とは「仕事」だけではなく、「自由時間」「余暇」「学習」「家族との活動」を含んだ人生そのもののことであり、またそのプロセスであり、実績である、と定義しています。

2 「ライフステージ」と「ライフロール」

図1のような「ライフ・キャリア・レインボー」を提唱したスーパーは、その中に2つの大きな要素を含ませています。それは「ライフ・ステージ」と「ライフ・ロール」という考え方です。

ちょっと分かりにくいかもしれませんが、人の人生は年齢ごとに、「成長期 0～14 歳」「探索期 15～24 歳」「確立期 25～44 歳」「維持期 45～64 歳」「衰退期 65 歳～」といった5つの時期＝「ライフ・ステージ」に分かれていると考えます。

要するに、キャリアの段階のことです。

自分のキャリアデザインを考えてみましょう！

※大学のキャリア講義で使用しているワークシートです

(記入方法) それぞれの年齢において、自分にどのような出来事・変化が起きていることが理想なのか、自分の人生を自由にデザインしてみてください。

	新人時代	社会人5年目	遠い将来像
年齢	() 歳	() 歳	() 歳
●仕事軸 (自分はどんな姿で働いているかな。こうなれたらいいな)	例) 希望通りの病院に入職し、患者さんに名前を覚えてもらえ、毎日楽しい／企業でバリバリ働いている。	例) メンバー5人をかかえた主任になっている。	例) 独立して薬局を経営している。
●その時、自分はどんな人に成長し、どんな自分であるだろうか。	例) わからないことは先輩にどんどん聞いている、積極的な人。患者さんとは笑顔で話せる明るい人。		
●最悪のパターン・・・ 「怠惰で、周囲の環境のせいにし、目標もなく、努力しないでいる」と、どんな人生になってしまうだろう…	例) 薬剤師にならず、なんとなくフリーターをしている。		
●生活軸 (どんな生活を送っているかな)	例) 寮で一人暮らし。独身。年2回海外旅行で遊ぶ。		

■あなたの「薬剤師として働くテーマ」は何だろう？ ()

学生が身に着けたい、 社会人基礎力とは何でしょうか？

キャリア教育は、社会に出た際に必要とされる力が、長い学校教育の成果として身に着けられていない、という指摘の中で生まれたものですが、では、社会に出た際に必要な能力とはどんなものなのでしょうか。

2006 年、経済産業省が「社会人基礎力」という言葉を使い、学生が社会人になるまでに、この力をつけることが重要であると提案しました。

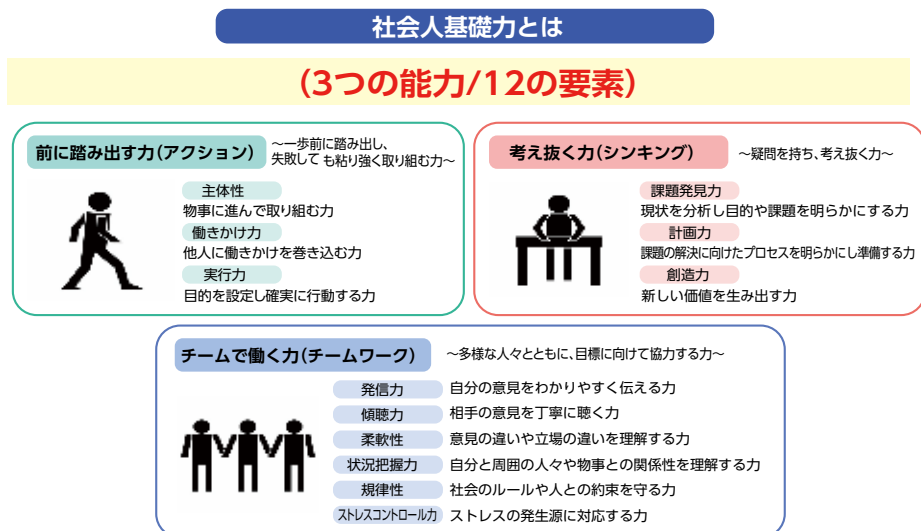
こういった力をつけることが必要だと言われる背景には何があるのでしょうか。

近年、産業界から「学生面接で人間力のある若者が減った」「マニュアルどおりにはできるが、アレンジ力がない」「受け身の人が多い」等のコメントが多く、また、「精神的に未熟な人が多いので育成に時間がかかる」とも言われています。

こういった状況は、企業の競争力の低下、ひいては、国の競争力の低下につながるため、問題視されているのです。

そこで、国としても、社会で求められる力を学生に広く知らせ、学生時代に何をしたらいいのか、準備できるものはあるのか等を考えさせています。

それが以下の3つの能力、12の要素(図7)です。



(経済産業省 web サイトより)

図7 社会人基礎力とは

大学を卒業してから、定年までだいたい40年。自営業以外で働く人は、組織の中で、40年という立場で仕事をし続けるのか、

自分で設計していくことが必要になります。

キャリアパスモデル(第13章)の中でも紹介するように、年に数回、組織、上司から「どのように働きたいか」と査定面談で聞かれることもあります。

その時に薬剤師は、「リーダーになるのはイヤ」

「薬局長だけにはなりたくない」というコメントをする人が多いです。

その理由はさまざまですが、「人の上に立って指示を出すのがイヤ。

慣れてない」「皆と同じ仕事をしているだけでいい。上になると孤独になる」

「時間外労働も増えるし、組織からの要望も聞かねばならず、苦しそう」等々の理由が主なものです。

もちろんそういったコメントは真実である部分もありますが、それ以上に、立場が変わって初めて知る仕事のやりがいもあるのだということを考えてみてもいいと思います。苦しい、キツイだけではない、リーダーとしてのやりがい。そのやりがいは、いろいろとあります。

リーダーをイヤがるのは薬剤師だけのことではありませんが、一般にビジネスパーソンはマネージャー職に就かないと年収が上がらないので、そうはいても昇進にこだわります。薬剤師は、年収より一般職の立ち位置を志向する人の方が多いように感じます。

実は、今のビジネス界においても、強いリーダーシップを発揮し、組織を引っ張り、改革を推し進めるタイプが減ったと言われています。

1 リーダーシップ論

「リーダーシップ論」は、たくさんの経営学者に常に研究されていて、たくさんの論説があります。

本屋さんに行くと分かりますが、リーダーシップに関する書籍は、本当にたくさんあります。

仕事人生は、大学を出てから約 40 年続いていきます。本当に長い時間です。ですから、目先の興味にとらわれて就職をしたとしても、そこで 40 年間働きたいのか自分でも分からないかもしれませんし、自分が続けたくても、雇用され続ける力がないと打ち切られる可能性もあります。となると、40 年間仕事のオファーが来続ける能力を身に着けなければならないのですが、どこでも雇用される能力のことを「エンプロイアビリティ」と言います。

今や、薬剤師業界も、ある日突然経営破たんしたり、合併や吸収によって全く異なる会社になってしまったり、あるいはリストラを言い渡されたりすることがいつ起きても不思議ではない時代に突入しています。

そんな時代に皆さんが考えることは、

「いざという時に高く評価してもらえる会社に転職できるのか」

「独立したいが、やっていけるのか」

「吸収された会社でも通用する能力なのか」ということだと思います。

エンプロイアビリティの高い人はいつの時代でも、どこの会社でも熱視され、高く評価されます。

もし、その会社・職場でしか通用しないならば、エンプロイアビリティの低い人となります。

1 エンプロイアビリティとは

エンプロイアビリティには、いろいろな能力があります（参考：「キャリアの教科書」、佐々木直彦著、PHP 研究所、2003 年）。

- 所属している組織に雇われ続けるための力
- 好条件での転職を可能にするための力
- やりたい仕事をやり続けるための力

薬剤師には、さまざまなキャリアモデルがあります。

どれが成功で、どうだったら失敗というわけではありません。

その人の描く理想の人生において、仕事をどう捉え、取り組むかは、その人の考え次第で構わないのです。

ここでは、何人かのキャリアを紹介します。

皆さんが自分のキャリアデザインを考える際の参考にされてみて下さい。

ただし、ここに紹介する方々も、実はまだキャリアデザインの途中なわけで、この先のことは分かりません。

30代後半以降のキャリア層

● Aさん 38歳男性 チェーン薬局勤務 転職歴1回

卒業時の就職活動は.....

2000年頃の就職活動時は、ドラッグストアが勢力を伸ばしている真っ最中。この方は、ご自宅のある関西近郊で、勢いのあるドラッグストア企業を模索。その中から3社程度絞る。どれも地域密着の戦略を掲げ、興味を持ったが、ある薬剤師社長の薬剤師を中心に考える展開戦略、アメリカ型調剤併設店のビジョンに共感し、入社を決めた。



- 入社後5、6年経過し、ドラッグストア業界も全国的な競争が始まる。地域密着戦略の会社ビジョンも薄れ、近隣の企業群と資本提携。日本一を目指す戦略に変化し、だんだんと売上至上主義になっていく。薬剤師だったら誰でもいいから採用すべき、といった考えに疑問を持つようになり、「もっと薬剤師として真面目に正直に仕事がしたい」と思うようになる。エリア長で高い年収だったが、次の会社で納得のいく仕事がしたい、と転職を決意。
- 果たして、そんな自分の考えに合う会社はあるのか、と不安になりながらも、いろいろな企業を見える。患者に対する課題解決力が乏しい処方箋調剤専門薬局には元々あまり興味がなかったが、ある薬剤師経営者の志高く仕事に向かう姿勢に共感。さらに、自分の経験が生かせるポジションもありそうなので転職。

- マネージャー職だった前職から比べると、勤務薬剤師としての入社は年収も下がるが、本人は「会社が変わったので年収が変わるのは当然。実力でまたもらえるようになりたい」と言っていた。しかし、転職後半年で薬局長に。1年後には新規開局の責任者になり、後輩の指導もこなす。現在では、本部にて人事教育責任者として新人、薬剤師社員の教育プランの策定、実行をこなす。「正しいことをやれ」と言ってくれる経営者の元で、本当に働きやすい、と感じている。
- 今後のビジョンについては模索中。少し現場から遠のいているので、変わりゆく薬剤師の現場を見ると、また戻りたい気持ちもあるし、まだあまり得意としていない会計のことなど、経営に関してまだまだ勉強しなければならないことも多い。課題はまだまだ多いと感じている。

ポイント

この方は「薬剤師としてプロの仕事がしたい」「正しいことをしたい」ということを考えの中心においています。その点で「利益至上主義」「薬剤師のレベルを問わない多店舗展開」には違和感を感じていたのです。たとえ給料が高くても、毎日仕事をしていて納得のいかない日々だったとのこと。仕事の満足度を高めるために、転職を考えた例です。

大学の
キャリア教育
にも使える

薬学生・薬剤師のための

キャリア デザインブック

著者略歴

にしづる ち か
西鶴 智香

昭和43年1月生まれ 大分県出身

1990年愛媛大学法文学部卒業後、同年4月株式会社リクルート入社
新卒採用コンサルティング営業、営業企画を担当

1996年人材派遣会社・福岡オフィス責任者を経て、1998年ドラッグストア、チェーン薬局の人事・採用アドバイザーとして
フリーランサーで独立

自治体（岐阜県、長崎県、熊本県、大阪府）のキャリアセンターのカウンセラースーパーバイザー、Jリーグキャリアサポートセン
タースタッフとしても活動実績あり

2004年株式会社キャリア・ポジション設立、代表取締役就任
薬剤師専門のキャリアカウンセリング、転職支援、全国の病院・薬局・ドラッグ企業の人事採用教育関連アドバイザー・
社員研修なども担当

看護学部・薬学部非常勤講師（キャリアデザイン）
米国 CCE,inc. 認定 GCDF — japan キャリアカウンセラー
所属学会：日本キャリアデザイン学会、日本インターンシップ学会

大学のキャリア教育にも使える
薬学生・薬剤師のための

キャリアデザインブック

2015年3月2日 第1刷発行

著者 西鶴 智香

発行 株式会社薬事日報社

〒101-8648 東京都千代田区神田和泉町1番地

電話 03-3862-2141 FAX 03-3866-8408

URL <http://www.yakuji.co.jp/>

印刷 昭和情報プロセス株式会社

デザイン 株式会社アブリオリ

ISBN 978-4-8408-1294-8

落丁・乱丁本は送料小社負担でお取替えいたします。

本書の複製権は株式会社薬事日報が保有します。